

なんか

# やってま〜す

～福祉委員情報紙～

ナンバー 007

発行 平成23年3月

発行元 坂井市社会福祉協議会

坂井市社協福祉委員幹事会

## ある日の様子

江留中ふれあいサロンは“できることをできる人たちで”をテーマに、「気をつかわんといての」「みんなのできることをしてるだけやでの」「お互いさんやが」と声をかけ合い、助け合う地域を目指して毎日継続的な取り組みをしています。そんなある日の様子です。



この日は春江中保育所の園児との交流を行いました。園児の発表を聞いたり、いっしょにレクリエーションをしたり、楽しいひとときを過ごしました。

～江留中区とは～

私たち住む江留中区は、春江の中心的地域にあり、公共施設、大型ショッピングセンターなどに近く、住みやすいところです。世帯数 326 戸、人口 1,043 人を超える集落です。昔から住まれている方、新しく住民になられた方と一緒に、共生のとれた地区となっています。

## 福祉委員 匿名希望さん（三国町）に聞いてきたぞ～

福祉委員をさせていただいて7年になります。活動の過程で多くの仕事を学びました。高齢者や障がいを持った方は、私自身の生きる道しるべになりました。それは、福祉委員活動を自己満足で終わらせてはいけないという反省にもつながったのです。「してあげる」この思いは心を結ぶ架け橋になりません。受け手と送り手だけの関係でなく、同時代を生きる人間同士としての感動を分かち合う、それが福祉の心だと教えられたように思います。

リポーター 三国町 高市 菊江

## コラム

NHKで柴田トヨさんの詩集「くじけないで」の紹介がありました。現在九十九歳。その詩集に、「九十歳を過ぎて出会った詩作で気づいたことがあります。どんなに辛いこと、悲しいことがあっても…多くの縁ある方々の愛情に支えられて今の自分があるんだということ」という一節がありました。

今必要なこと。支え、支えられながらの絆。私たちの振る舞いで地域に春風を。

坂井町 伊藤 浩

身に覚えのないハガキ、電話等は一人で判断せず、家族等に相談しましょう。

# 《キーワード》 支え合いマップ

## 幹事さんに きいてみよう



3月12日に2期以上の福祉委員さんを対象に『レベルアップ研修会』を予定しておりましたが、先般の東北関東大震災の影響により延期（5/22 予定）させていただきました。今回は研修会のテーマであった“支え合いマップ”について幹事さんに聞いてみましょう。



支え合いマップとは、どんなマップなのですか？

自治会の福祉関係者同士で、区のなかで行われている支え合いの状況を出し合い、住宅地図に落とし込み「見える化」したものを支え合いマップというそうですよ。



なぜ今、支え合いマップが必要とされるのですか？

先般の東北関東大震災や全国的な大雪災害などの際、行政からの情報や支援を待つだけでなく、自分たちで協働し合うことがとても大切だからだと思います。

自分たちの地域の支え合いの体制はどうなっているのか、またどうしたらよいのかを、特に見守りが必要な方の支援を重点におき、個人情報保護法をクリアしながら取り組める有効な方法だと思いますよ。



支え合いマップは、実際に地域でどう活かされるのですか？

年度の初めに区の福祉関係者（福祉委員・民生委員児童委員・区長など）でマップづくりを行います。実際にその情報をもとに見守りや支援が必要な方へ情報チラシなどを配って、つながりをつくるようにしている地区もありますよ。



## 社協情報

第6回坂井市社会福祉大会は、  
平成23年11月20日（日）  
ハートピア春江にて開催予定。

掲載等のお問い合わせは

みくに支部 ☎ 82-1170  
Fax 82-1593  
まるおか支部 ☎ 68-5060  
Fax 67-2950  
はるえ支部 ☎ 51-4545  
Fax 51-6269  
さかい支部 ☎ 67-0640  
Fax 67-2807

十年前、私は「ボランティア入門講座」に参加しました。ある施設を訪問したとき、和室でごろんと横になってテレビを見ている男性がいました。職員に訪ねると、「ここまで足を運んで利用者とテレビを見る。私たちはそれをボランティアだととらえている」とのことです。私にはとても新鮮に映りました。

このときのことから私の福祉活動の原点になりました。今、私は福祉委員としてサロンを月二回、テーマを掲げて二人のスタッフとともに「自分が利用者だったら」をキーワードに開催しています。サロンの会話の中から情報を吸い上げ、福祉委員同士の連携を強化し、点から面へと行政に繋いでいき、「住みたい集落」を目指し、いきいきと次世代にバトンを渡したいと思っています。

丸岡町 本田 千絵